



# 『東北圏だより』



## 秋田県におけるクルーズ船誘致の取組について

秋田県

クルーズ船の寄港は、数千人規模の乗客が寄港地周辺やオプションツアー等により県内各地を訪れるため、地域経済の活性化や地域住民とクルーズ船客との交流の進展など、地域振興に大きな効果が期待されています。

こうした中、当県へのクルーズ船の寄港回数は年々増加傾向にあり、平成29年の寄港は25回と過去最高となりました。

当県では、官民が一体となってクルーズ振興に取り組むため、平成29年3月に「あきたクルーズ振興協議会」を設立し、クルーズ船の寄港拡大に向けた取組をハード・ソフト両面から進めており、最も寄港回数が多い秋田港では、クルーズ船客の利便性と満足度の向上を図るため、常設のクルーズターミナルなどの整備を行っているほか、クルーズ船の大型化に対応するため、係留施設の改良も計画しています。

このように、クルーズ船の寄港回数の増加や船体の大型化が進む一方で、秋田港では港からの移動手段である「二次交通」の確保が課題となっていました。

このため、秋田県、秋田市、JR東日本秋田支社の3者が連携し、日本貨物鉄道株式会社、秋田臨海鉄道株式会社の協力を得て、クルーズ船の寄港が集中した昨年8月の秋田市竿燈祭り期間中の4日間限定で、秋田港—秋田駅間の「クルーズ列車トライアル運行」を実施しました。

このトライアル運航は、普段は貨物線として使用している線路に、クルーズ船客の移動のために客車を乗入れするもので、秋田港の停車場には車椅子でも乗降できるように仮設のスロープを2箇所設置するなど、全国でも例のない、新たな取組となりました。

クルーズ船客の移動に列車を活用することで、バスの利用に比べ定時制の確保と移動時間の短縮が図られたほか、移動手段の選択肢が広がり、大量輸送も可能となったことにより、利用者からは好評を得ることができました。

この「クルーズ列車トライアル運行」のほか、クルーズ船会社等を対象に実施した県内視察ファムツアー、東京都での港湾説明会の開催など、クルーズ船の受入れに向けた熱心な活動が高く評価され、「あきたクルーズ振興協議会」の取組は、一般社団法人日本外航客船協会の「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2017」の特別賞を受賞しました。

今年度はさらに、国の国際クルーズ旅客受入機能高度化事業により、常設の停車場施設を整備する予定としています。

当県では、昨年のトライアル運行を踏まえ、来年度以降の本格運行に向けた関係機関との協議、調整を県、秋田市、JR東日本秋田支社の3者連携で進めるとともに、クルーズ列車を活用したオプションツアー商品の造成、提案等を行っていくなど、更なるクルーズ船寄港による地域振興に取り組んでいくことにしています。



## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。東北圏広域地方計画推進室では、現在、東北圏広域地方計画のプロジェクトの推進状況を検証するとともに、推進に向けた課題への対応等について検討し、プロジェクトを始め計画の一層の推進を図るため、フォローアップ作業を行っております。本年も、協議会構成機関の皆様のご協力を賜りながら取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願い致します。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：thr-kou-suishin2@mlit.go.jp ※メールアドレスが変わりましたので、ご注意ください。